

# 進路の手引き

高等学校卒業時の進路選択は、皆さんの人生においてとても大切なこととなります。その進路を考えると、「進学」するのか、「就職」するのか、という大きく分けて2つの選択となります。その進路を決めることにおいては、本校での進路説明会やガイダンス会、オープンキャンパスなどに積極的に参加し、そして進路室や担任（チューター：所属コースによって異なります）の先生をはじめ、保護者の方々を中心に相談しながら自分の進路を決めていきましょう。

この手引きでは、進路に関わる基本的な情報や必要書類などについて掲載しています。また、詳細の日程（共通テストの出願期間など）や各ターム毎の進路行事などについては、受講登録時や教科書販売時に配布される「向陽台通信」「進路Navigate（ナビゲート）」に掲載していきますので、各自必ず目を通して確認するようにしてください。

## 進学

### 1. 進学について

「進学」には次の4つのパターンが考えられます。

- ①4年制大学（国公立および私立大学、通信制大学、専門職大学）
- ②短期大学（国公立および私立短期大学、通信制短期大学、専門職短期大学）
- ③専門学校（専修学校、各種学校など）
- ④特殊大学校（防衛大学などの文部科学省管轄外の特殊大学、水産・農業などの大学校、職業訓練校など）

### 2. 進学先の情報収集から志望校を決める

「進学」を決めたら、まずは情報収集して進学先を絞っていきましょう。

- ・（進路室にある）進路情報誌、学校案内、各学校のホームページ、インターネットから資料請求
- ・学校での進路説明会やガイダンス会に積極的に参加
- ・オープンキャンパス、学校説明会、体験入学に積極的に参加

※大学で何を学びたいか（法学、心理学、情報学、電気電子系…）。

専門学校では、将来どのような仕事に就き、何の資格を取りたいのか。

例）美容師になりたい→国家資格の美容師の資格を取るため

★同じ学部や分野を持つ学校をできるだけ複数研究すること！

### 3. 入試方法について

志望校が決まれば、その学校へ入学するための入試方法を知り、対策を立てていきます。

## 主な入試方法

- ①総合型選抜(9月～、専門学校では8月頃からスタートするケースもあり)
- ②学校型推薦型選抜(9月～12月)
- ③共通テスト(1月)
- ④一般選抜・国公立2次試験(1月下旬～3月下旬)

### ①総合型選抜(9月～)

大学・短大・学部・専門学校が定める「求める学生像(アドミッション・ポリシー)」に合った人物を受け入れる入試方式である。「その学校(学部)で学びたい」という強い意欲や、入学後の目標が明確である、などを重視するのが特徴で、学校長の推薦は基本的に必要ありません。入試方法として、面接、小論文(書類選考)、プレゼンテーション、オープンキャンパスに参加し講義などを受けるなど、学力試験をほとんど課さない試験であり、この入試で合格すれば「専願(必ず入学しなければならない)」となるケースが多く、募集要項をしっかりと読み、第一志望校として受験することになります。8月頃から、エントリーを開始する学校もある。

### ②学校推薦型選抜(9月～12月)

学校推薦型は、基本的には学校長の推薦が必要になります。さらに「公募制」と「指定校制」の2つに分かれており、出願条件として高校での学習成績の状況(評定平均値)が定められていることや、現役生や1浪まで可ということが多いです。このように高校での学習状況、課外活動、英検等の資格の有無など日頃の努力を評価するのがポイントであり、大学入試では、これらの評価に加え学科試験を課すケースが多くなる。また最近では、小論文や面接を課す場合も多くなってきている。本校の「指定校制」については、この手引きの「指定校推薦入試について」を参照してください。

### ③共通テスト(1月)

国公立大学を志望する人は、必ず受験します。多くが7科目の受験となるが、3科目の大学もある。また、私立大学でも共通テスト利用入試などの試験制度があり、出願すれば共通テストの点数だけで合否を判定するので受験の機会が増えます。

出願については、願書(要項)を9月上旬から進路室で配布を開始し、9月下旬～10月上旬の期間に学校からの一括出願となるので注意すること(個人での出願はできない)。

※卒業生は個人での出願となる。

### ④一般選抜(1月下旬～3月)と国公立2次試験(2月～3月)

学科試験のみの入試で、多くの大学では合格者数一番が多くなる入試方式である。大学志望者は、この入試に向けての受験対策を進めていく必要があるため、早めに志望校を絞り各学校の入試情報を把握しておくこと。私立大学では、3教科(文系→英語・国語(古典)・世界史や日本史などから1科目選択、理系→英語・数学・化学や物理などの理科からの1科目選択)が中心となり、国公立大でも多くがこの私立型の3教科型入試が多い。

- 志望校の一般選抜に向けての勉強をしながら、総合型選抜や推薦型選抜入試をチャンスの一つと考えて受験の計画を立てて行きましょう。

### 3. 指定校推薦入試について

本校でも、大学・短期大学・専門学校を中心に指定校依頼があり、指定された人数しか受験できない入試である。受験者は「学校代表」として受験することになるので、まず本校での校内選考を通過しなければならない。また、校内選考を通過した時点で「専願」となるので、本当に行きたい学校であり、本当に学びたい学部・学科なのかを考えて志願すること。

以下の指定校推薦入試での校内選考や基準をよく確認しておくこと。

#### ①校内選考期間について(詳細日程は各年度ごとの進路ナビゲートなどで確認すること)

- ・第1回校内選考申込・・・9月上旬(9月1日～10日前後)
- ・第2回校内選考申込・・・9月中旬(9月中旬～20日前後)
- ・以降、出願に間に合えば随時申込・選考になる。

#### ②校内選考申込条件

3年次の6月または7月の校内模試を必ず受験しておくこと。

#### ③指定校選考基準

- 1) 校内選考申込の段階から希望する学科を専願とする生徒
- 2) 希望する学校の出願条件を満たしている生徒  
(欠席日数について条件がある場合は、前校での欠席も含む)
- 3) 大学・短期大学で「全体の学習成績の状況=評定平均値」の出願条件がない場合は、C段階(2.7)以上である生徒
- 4) 本校での修得単位が1単位以上ある生徒
- 5) 本校が指定している模擬試験(上記②の校内模試)を受験している生徒
- 6) 学校規則を遵守している生徒で、合格後も本校を卒業するまで本校生として充実した生活を送り、希望する学校に入学した後も卒業に向けて勉学等に励むことを確約できる生徒
- 7) 一部の大学については、英検準2級以上の資格を取得していること  
(難関大学、外国語系学部-英語学科・英文科などや国際関係学部など)

#### ④選考方法

志望理由書・全体の学習成績の状況・模試・資格(検定)など総合的に判断する。

- 指定校の一覧は、7月中旬頃に「進路室」前にて掲示します。また、8月上旬に、「指定校推薦入試説明会」を実施するので必ず参加してください。

#### 4. 進学における必要書類について

志望校が決まれば、募集要項(願書)を早めに入手し必要な書類を準備します。学校によっては、5月頃から募集要項を公表しています。最近では、各学校のホームページで早めに公開したり、必要書類をダウンロードしなければならないケースもあるので、随時志望校のホームページを確認しておきましょう。

##### 進学で必要な主な書類

- ①願書(各自で入手)
- ②調査書(高等学校が作成、発行するもの)
- ②推薦書(特に学校推薦型選抜では必要。各自で入手し、高等学校が記載します)
- ③志望理由書(特に総合型選抜では必要。各自で入手し、作成する。)

##### ①願書

志望校から募集要項を入手し、各自で作成する。最近では、インターネット出願も多くなっている。出願時に在籍校の課程などを記載するが、向陽台高等学校では次の課程となる。

向陽台高等学校＝「通信制課程 普通科」

##### ②調査書

出願書類として必ず必要となる。在校生は、進路室にて「調査書作成資料」に記入し、提出してから受け渡しまで1週間～10日程かかるので注意しておくこと。調査書作成資料には、自己PR・資格(資格などがあればその合格証書などのコピーが必要)・志望理由などを記入し、これらの情報を基に調査書を進路の先生が作成します。受験先の日程などの記入欄もあるので、あらかじめ受験のスケジュールを立てたメモを用意しておくことが望ましい。また、調査書の発行時期も受験の時期によって異なるので注意すること。

・(8月～12月の受験)→前期2タームまでの成績で発行

・(1月～3月の受験)→後期2タームまでの成績で発行

※卒業生は、事前に進路室へ電話して調査書作成の相談をしてください。

●健康診断書を提出していない場合は作成できません。

##### ③推薦書

学校推薦型選抜ではほとんどの学校で必要となるので、各自で推薦書を入手(募集要項に添付)、またはホームページよりダウンロードし、調査書作成と同時に進路室へ持ってくる。推薦書は、進路室の先生が作成するので記入しないようにすること。受け渡しは、調査書と同封するので1週間～10日程かかります。指定校用の推薦書は、校内選考通過者のみ学校から渡すことになる。

●「調査書」「推薦書」は、それぞれ1通100円の発行手数料が必要です。

#### ④志望理由書

総合型選抜では、必要となる書類で、各自が入手し作成しなければならない。各学校や各学部のアドミッションポリシー（求める人物像）を良く読み、学校案内のパンフレットやオープンキャンパスでを通じて、その学校で何を学び、そして将来どのようなことをしたいのかを記入することがポイントである。一度下書きをしてみて、進路室の先生にチェックをもらうようにしましょう。

#### 5. 進路先の情報収集

3月下旬頃から、オープンキャンパスや学校見学会（説明会）が始まり、学年問わず参加できるので、できる限り多くの学校を見ておこう。学校の雰囲気や施設、通学距離、入試情報、学費面、就職状況など、パンフレットだけでは分からない情報が入手できるのがメリットである。中には、オープンキャンパスに参加することや、そこでの模擬講義を受講することで総合型選抜入試の出願条件となる場合もあるので、各学校のホームページで早めに日程の確認をして、スケジュールを立てて参加していきましょう。

#### 6. 模試について

進路室では、各学年毎に模擬試験の申込みをおこなっています。模試の日程なども、進路室前のモニターや進路ナビゲート等で案内しているので、積極的に受験するようにしましょう。特に、大学受験を考えている生徒は、模試で自分の現在の学力のレベルや科目ごとの弱点を把握することができます。模試の結果で一喜一憂するのではなく、現在の課題点の発見と今後の学習対策を立てることに役立つので是非とも積極的に受けていきましょう。また、進路室では、外部での模試（河合塾、関関同立模試など）も案内しています。

### 就職

#### 1. 就職について

高校卒業後の就職活動は大きく分けて次の3つに分かれます。

- ①学校を通じて探す
- ②自分で探す
- ③公務員（各自で出願し試験を受ける）

#### 2. 学校を通じて探す場合

次の流れで就職先を決めていくことになります。

- ①進路室で「就職希望者連絡票」を作成（登録）する。
- ②7月1日から、全国一斉で求人票が公表され、学校へも求人票が届いてくる。
- ③求人票から数社ほどに絞り、さらにその中から「応募前職場見学」に行き、職場の雰囲気や実際の仕事内容を見て応募するかを判断する。「応募前職場見学」は、進路室の先生が会社と連絡を取り日時を決めていくので、個人での連絡はできません。9月から応募や

入社試験が始まるのでできるだけ7月末～8月末までには職場見学を終わらせておくようにすること、また職場見学には進路の先生や担任が引率することが基本ですが、個人のみで行くケースもある。

④応募へ(9月5日～全国一斉でスタート)

人気企業や人気の職種(事務系など)は、この時期に応募しましょう。この時期を逃すと、求人が充足されて以降応募が終了する会社が増えてきます。

⑤入社試験開始(9月16日から全国一斉でスタート)

入社試験は、面接試験が必ず実施され、筆記試験(一般教養試験やSPI試験など)や適性検査などを実施する会社もある。学校を通じて応募する場合は、進路の先生が面接練習を実施します。また一般教養試験などの対策として、幅広く教養を身につけて行く必要があるため日々の学習を怠らないようにすること。

⑥合否結果

入社試験後、約1週間～10日ほどで合否結果が学校に届きます。合格(内定)の場合は、就職活動は終了となり、必要書類(入社承諾書など)を会社に提出します。以降の入社日や研修日などの案内は学校を通じて連絡がきます。不合格(不採用)の場合は、また別の求人票から応募可能な会社を探し、「応募前職場見学」→「入社試験」と同じ活動を9月以降随時おこなっていきます。

※学校を通じての求人は、基本的には1社内定が出ると辞退できません。また、10月以降は複数応募(同時に2社へ応募する)ができる会社もありますが、本校では1人1社を薦めています。

●就職は、「本当にしたい仕事」を見つけないと志望動機などうまく伝えられず、内定まで至らないケースが多いです。会社側も、採用後時間をかけて育成していこうと考えているので、1年から数年で辞めるような人物を採用しません。就職を考えている生徒は、どのような求人(職種・給料など)があるのか、まずは1～2年生の間に進路室へ来て求人票を閲覧するようにしてください。進学と同じで早い情報収集が、早期の内定へとつながります。

●学校を通じての求人票は、全てハローワークを通じての求人であり、基本的には来年3月卒業見込みの生徒を対象としたものとなっている。9月卒業の生徒は、対象とならないので注意してください(9月に卒業が可能でも、学校を通じて就職を考えている場合は3月に卒業を延期する方向で考えておくように)。

3. 就職における必要書類について(学校を通じての就職の場合)

- ①履歴書(学校指定の履歴書で進路室で配布する)
- ②調査書(高等学校が作成、発行するもの)
- ③紹介書(高等学校が作成、発行するもの)

### ①履歴書

近畿高等学校統一用紙の履歴書を使うので、市販の履歴書は使いません。写真(タテ4cm×ヨコ3cm)=正装のもの(スーツ着用、および本校の標準服)を用意しておく。志望理由もしっかりと書けるように準備しておくこと。

### ②調査書

出願書類として必ず必要となる。進路室にて「調査書作成資料」に記入し、提出してから受け渡しまで1週間~10日程かかるので注意しておくこと。調査書作成資料には、自己PR・資格(資格などがあればその合格証書などのコピーが必要)・志望理由などを記入し、これらの情報を基に調査書を進路の先生が作成します。

●健康診断書を提出していない場合は作成できません。

### ③紹介書

調査書作成時に、進路の先生が作成・発行します。

●「調査書」「紹介書」は、それぞれ1通100円の発行手数料が必要です。

## 4. 自分で探す場合

学校を通じて就職活動をしなない場合は、各自で会社のホームページや一般の求人情報誌などを活用して就職活動をおこないます。履歴書は市販のものを活用したり、ホームページよりエントリーしたり、などその会社の指定した方法で応募していきます。アルバイト先から、正社員に転換するケースもあります。学校を通じての就職活動は学校のスケジュールに合わせて活動しなければなりません、自分で探す場合はその会社のスケジュールに合わせて活動することになります。

## 5. 公務員採用試験について

公務員は各自で出願し受験することになります。出願時期は7月~8月頃で、9月に1次試験、10月に2次試験、11月に発表というケースが一般的です。試験内容は、一般教養試験、適性検査、作文、体力テスト(消防・警察など)となっており、早めの対策が必要です。都道府県市町村職員採用試験は、ホームページなどでこまめに情報収集しておいた方がいいです。公務員人気もあり、試験はかなり高倍率となっている

### ●「進路室」の利用について

進路室では、「進学」「就職」などを中心に進路に関することを調べたり、相談できる場所です。個人相談をはじめ、保護者を含めての三者相談(懇談)もできるので気軽に利用してください(三者懇談の場合は事前に電話予約を入れてください)。また、調査書・推薦書・紹介書の作成、志望理由書の添削、面接練習(事前予約)、模試の受付、進路の行事の申込みなどもおこなっています。土曜日については、スクーリング期間中であれば利用できますが、開室時間などは事前に電話で確認してください。